NPO 中帰連平和記念館

CHUKIREN HEIWAKINENKAN

〒 350-1175　埼玉県川越市笠幡１９４８－６　TEL&FAX：０４９－２３６－４７１１
郵便振込：「中帰連・平和記念館」（００１５０－６－３１５９１８）

日頃の記念館へのご理解ご支援に感謝申し上げます。
長い間『会報』が届かず、皆様にもご心配をお掛け致し申し訳ございませんでした。
昨春の総会で仁木ふみ子理事長・館長が辞任され新たに松村髙夫先生(慶応大学名誉教授）と姫田光義先生（受け継ぐ会代表・中央大学名誉教授）を理事にお迎えしました。
今後ともご理解ご支援のほど宜しくお願い致します。

総会のご報告

昨年 5 月 29 日に「中帰連平和記念館」で総会が開かれ、下記の定款変更などが承認されました。

１．事業報告を芹沢理事から、財産目録、貸借対照表及び収支決算書については会計担当の長坂理事から、また会計監査を髙橋監事から報告がありそれぞれ承認されました。

２．理事の人事について
理事の皆様 10 人全員の再任が承認されました。また、前記の通り松村先生、姫田先生が新たに理事に就任され、それぞれ代表理事と館長に就任戴きました。
尚、理事のお名前は下記の通りです。
（松村髙夫・代表理事、姫田光義・館長、仁木ふみ子、大河原孝一、平山百子、今井雅巳、松山英司、橋本聰、熊谷伸一郎、長坂光行、辻耕、芹沢昇雄）
尚、下記のお 2 人の「監事」再任も承認されました。（髙橋哲郎、野村眞巳）

３．　下記の「定款変更」などが承認されました。
①.理事の定員 10 人を 15 人に変更しました。
②．記念館の主たる事務所と電話番号を仁木先生宅から記念館に変更しました。
④．仁木先生の理事辞任に伴い、新しく松村髙夫先生が代表理事に、姫田光義先生が館長に就任しました。

松村髙夫・新理事長あいさつ

昨年 5 月の総会で代表理事をお引き受けしました松村髙夫です。
『会報』の発行が遅れたため、皆様へのご挨拶が遅くなり、失礼しておりました。仁木ふみ子先生から後任を引き継いで欲しいといわれたとき、正直言って躊躇しました。この平和記念館が開館したことも知らず「受け継ぐ会」の会員でもない

お 知 らせ ！

記念館の住所（番地）と電話番号が変更になりましたので、ご確認宜しくお願い致します。
住所：埼玉県川越市笠幡１９４８－６
ＴＥＬ＆ＦＡＸ：０４９－２３６－４７１１

私は、どう考えても適任ではないと思ったからです。

2006 年 11 月初旬、中国の湖南省の常徳で開かれた 731 部隊・細菌戦の国際シンポジウムに 10 人ほどの日本人が参加したとき、篠塚良雄さんから撫順戦犯管理所の供述書が川越の中帰連平和記念館に届いたので一度行ってみては、とすすめられ、記念館に行きました。記念館が開館して 3 ヶ月経ったころになります。そこで初めて、記念館が仁木先生や髙橋哲郎さんをはじめとする中帰連の大先輩たちの大変なご努力の結晶として造られたことを知りました。既に 2 万冊の充実した山住文庫が納まっており、中帰連の方たちなどからの寄贈図書・資料が増えつつあるところでした。私は仁木先生のお話に感動し、私も 1 万冊の蔵書を寄贈させていただき、その後 3 回ばかり記念館で講演する機会も与えられ、多くの知人・友人を得ました。こうして平和記念館の活動に多少とも関わるようになりました。

私は「受け継ぐ会」の会員ではありませんが、何人かの関係者の知己を得ていました。1991 年にはハルビンで行われた 731・細菌戦の国際シンポジウムに参加したとき、北京で中央档案館の資料を閲覧したさいには、金源先生には大変お世話になりましたし、その後、解学詩先生と撫順戦犯管理所を訪問したこともありました。大河原孝一さんと札幌でお会いしたのは 30 年近く前になります。篠塚さんとは 731 部隊のことで多くのことを教えていただき、私は家永教科書訴訟や戦後補償裁判で 731 部隊に関して法廷で証言することができました。雑誌『中帰連』は山邉悠喜子さんが第１号から送って下さり読んでおりました。

ということで、私は中帰連平和記念館とは浅からぬご縁があることに気づき、当初は躊躇していた代表理事を、多少ともお役に立てればと思いお引き受けしたしだいです。ところが、実際に引き受けてみますとそれまで聞いていなかった、あるいは総会当日に聞かされた難題をかなり多数、この記念館が抱えていることがわかりました。財政状況が逼迫していること、ＮＰＯ法人としての組織の問題、図書や資料の整理状況記念館の種々の活動、などなど・・・・・・乗り越えていかねばならない課題が多数あり、私は気の重い数ヶ月を過ごしました。ここで景気のよい、展望の明るい就任のあいさつができなくて恐縮しております。姫田光義館長・理事のかたがた、そして何よりも経験豊富な会員の皆様と連帯・共働してこの記念館をさらに維持発展させるために、微力ではありますが、力を注ぎたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

館長に推されて
「中帰連」＝「撫順の奇蹟」を受け継ぐために

新館長・姫田光義

不肖の私が高橋哲郎さんと仁木ふみ子さんのお二人に強く推されて「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」の代表に就任したのが一昨年でした。もともとこのような組織があることは知っていても直接かかわりがなかった私ですが、お二人の熱意を通して「受け継ぐ会」の人々が中国人の「赦しの花（朝顔）」に感動しつつ仲良く結束して「加害責任を認識した上での反戦平和と日中友好」の運動に携わっておられることを理解して、代表をお受けしたわけです。それから一年後に、今度もまたお二人の強い要望があって、また記念館は「受け継ぐ会」としっかりと連携しなくてはならないとの説得もあり、狐疑逡巡しつつ館長就任を受諾したわけです。狐疑逡巡の理由は、いうまでもなく前館長の仁木さんとは比較にならないほど人格識見、実績に劣る私如きが館長になって社会的な影響が低下しないか、また実際に何をなすべきかをしっかりと認識していないのではないかという懸念であります。

しかし一旦推されて受諾した以上は、任期の間、代表理事（理事長）の松村髙夫さんのご指導の下、一心同体となって記念館を盛り立てて行くしか道はありません。そこで就任に当り、あらためて初心に帰りこの運動の本

質的な性格をみなさんとご一緒に考えてみたいと思います。

いまさら言うまでもないことですが、「撫順の奇蹟」というのは、撫順戦犯管理所を舞台として、被害者である中国人が、加害者である日本の戦犯に寛大で人間味溢れた態度で接した結果、その日本人が過去を反省し侵略の罪を認め、こうして「鬼」から「人間」に変わっていったという人間変革の歴史事実を表現した言葉です。日本人の千人近い戦犯たちが全員（病死者以外）無事に帰国できたことは、第二次大戦後の世界のＢ・Ｃ級戦犯裁判では異例の出来事で、当時同じ戦犯管理所に収容されていたラスト・エンペラー溥儀が「人類文明史上の奇蹟」と言ったことから、この日中両国の人々の間で織り成された情・理ともに併せ持った人間讃歌が「撫順の奇蹟」と称されるようになったのです。そして帰国した元戦犯たちは中国に感謝し、「中国帰還者連絡会」を組織して、帰国後の困難な政治状況（まだ日中関係は正常化されていなかった）と、社会生活の上での偏見と脅迫を受け続ける状況にもめげずに「加害責任の認識を基にした反戦平和と日中友好」を目指す活動を続けてきました。この方たちは老齢化のために２００２年に組織を解散しましたが、この素晴らしい人間讃歌に感動し彼らの信念と活躍を受け継ぎ発展させようとするのが、わたしたち「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」であり、これを資料・著作・記録などの形で残そうとするのが記念館であり、さらに芸術化して歌い継ごうとするのが「撫順・再生の大地」合唱団であるわけです。

したがって記念館の活動というものは、資料館・図書館であり博物館であり研究活動のセンターでもあると考えられますし、またそのようでなければならないと思うのです。多くの人々が記念館という場を通して交流し認識を高め、絆を強めつつ、真の日中友好とは何か、どうすればそれを実現できるのかを、共に考え一歩でも前進できるようになりたいと念願し、みなさまのご指導ご鞭撻を心からお願いして就任のご挨拶と致します。

さようなら

仁木ふみ子

日本はそのころ、非武装地帯とされた河北省東部にも、冀東防共政府をつくらせ侵略の姿をあらわしはじめた。危機感を持った中国共産党は、1935 年 8月 1日「内戦停止」と「抗日民族統一戦線結成」について国民に呼びかけました。

「金のある者は金を」「武器あるものは武器を」「食料あるものは食料を」「専門技術ある者は自分の専門技術を」提供しよう。と呼びかけました。いわゆる８・１、宣言です。民衆は立ち上がりました。

２００６年、この「中帰連平和記念館」が始まった時、関東ブロックの方々は自分の時間を供出して本の運搬や、整理にこんな田舎まで出てきて下さいました。

他の地域の方々は、呼びかけ人の呼びかけに応えて、書架や、机を買うためのカンパを送ってくださいました。これが「友の会」の活動のはじまりです。

図書館は問いを持って来館される方々に、その答えを内蔵している本を紹介して、読者と作者をつないであげる役割をはたすところ、そこで仕事をする館員に要求されることは誠実であることです。

皆さんのご健在を祈ります。私の残りの持ち時間は、いくらもないのですが、自分の仕事に専念します。富士山の噴火までは、この家も何とかもつでしょう。話をしたくなったら電話をしてからおいでください。

NHK-BSドラマ『開拓者たち』に資料提供

今年の元旦から毎週日曜日にＮＨＫ－ＢＳで放送された『開拓者たち』（4 回ドラマ）をご覧になった方もいらっしゃると思います。その 4 回目には大河原孝一さん（元中帰連副会長）、高橋哲郎さん（元事務局長）、亡くなられた東京の小山一郎さんや千葉の金井貞直さんも映像の中で証言されていまし

た。

この映像は過日の『認罪～中国・撫順戦犯管理所の 6 年』から利用したものですが、製作会社のテムジンが事前に来館し資料提供の協力をしたので最終回のエンドロールに中、『帰連平和記念館』と入れてくれました。今後も多くの皆さんに「記念館」の資料を提供しご利用頂きたと思います（記念館」で他にも色々な映像も見られます）

ペトラ博士、ドイツで「中帰連」研究書出版

過日､ベルリン自由大学のペトラ博士が中帰連」の研究で記念館に来館下さり、その時には「原爆の図」の丸木美術館にもご案内致しました。この度、博士がドイツでその成果である『中帰連』を紹介した研究書を発行され記念館にもご寄贈戴きました。

ペトラ博士（2008.5月・記念館で）

「被災地向けの本について」

「３・１１」の後、皆様にご協力頂いた被災地への図書約 1 万冊が集まり有り難う御座いました。いろいろ検討致しましたが、仁木前館長のご要望で現地の様子を確認したいと、昨年 10 月に宮城県東松島市の教育委員会を司書の宮本と芹沢の 3 人で訪ねました。

「来て頂いても多忙で同行できない」とのことでしたが、結果として津波に遭った 3 つの学校に同行しご案内下さいました。2 つの学校は他校に同居し、もう一つの学校は保健センターで勉強していました。各学校の図書室は全て 2 階にあり本の津波被害は免れていました。しかし 、その本も現在持ち込むこともできず、結果として「受け入れは困難」という状況でした。

昨年 11 月の「臨時理事会」でこの問題も検討し、取り敢えず「幼児、小学校、中学以上、辞書類」に仕分けし、今後も皆さんで送付先を探すことになり、現在も記念館に保管している状況になっております。皆様の善意と協力をまだ有効に生かせず申し訳ございません。

この本の一括受け入れは無理かと思いますが、皆さんもお心当たりがありましたら、記念館までご連絡頂きたく思います。

記念館近況

日頃、記念館へのご理解ご支援ありがとうございます。

記念館は中古の倉庫だったため本の重みで床が下がったりきしんだりするほどの本や資料があつまり有り難うございました。

一度、見学に来たらそれでおしまいというのではなく、心でしっかり感じ受けとめ、そして、ゆっくりでいいですから自分で考えるための場所となってほしいと思います。

かんたんなことではないでしょうが、そんな記念館をめざしています。開館時から東京や千葉、埼玉、神奈川の方々がお手伝いに来て下さっています。これからもよろしくお願いします。　（司書・宮本）

【総会日程】（出席：正会員・社員）傍聴可

日程 5月 12 日（土）10 時～ 12 時
場所：中帰連平和記念館」

◆『徐京植さんの講演会』（一般参加可）
場所：記念館」で総会の午後
テーマ：『フクシマ』14 時～ 17 時
（受付 13:30・参加費 500 円）
（問合わせ）
ＴＥＬ＆ＦＡＸ：０４９－２３６－４７１１